

<< 注 意 報 >>

岡 病 防 第 29号

平成31年 3月26日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察注意報第3号を下記のとおり発表したのを送付します。

平成30年度病虫害発生予察注意報第3号

平成31年 3月26日

岡 山 県

病虫害名 **タマネギべと病**

1. 発生が予想される地域

県下全域

2. 発生 of 蔓延が予想される時期

3月下旬以降

3. 予想される発生程度

多

4. 注意報発令の根拠

(1) 1月16日の巡回調査で例年3～4月に確認されるタマネギべと病の全身感染株の発生を認めており、**発生時期が極めて早い**。また、**3月14日の巡回調査においてタマネギべと病の発生圃場率は50.0%**で、4月上旬の平年値(28.5%)より既に高い。

5. 防除対策及び防除上の参考事項

(1) 前年のタマネギべと病の発生が平年よりやや多く、越冬伝染源量が平年より多かったと考えられる。

(2) 秋冬期にべと病に感染した株は大部分が無病徴のまま越冬し、暖かくなるにつれて発病して全身感染症状(図1)を呈し、春先の強力な伝染源となるため、**見つけ次第早期に抜き取る**。

(3) 本病は、気温15℃前後(平年の4月～5月上旬頃)で、雨が多いと二次伝染が盛んに起こり多発生しやすくなる。

(4) 本病は、多湿時には病斑上に白色または灰白色の分生胞子を形成(図1、2)し、これが風雨で飛散し、二次伝染源となって、急速な蔓延の原因となる。分生胞子の飛散範囲は広いため、地域一体となった防除が必要である。

(5) 発病後の薬剤散布では防除効果が劣るため、予防散布に努め、葉によく付着するように薬剤散布を行う。雨天等の天候や薬剤の残効性を考慮しながら、7～10日間隔の防除を行う。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける(表1参照)。

- (6) 農薬の使用に当たっては、収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに周辺農作物等への農薬飛散防止対策を行う。
- (7) タマネギのべと病菌は**ネギやワケギにも感染**し、二次伝染源となる。
- (8) 平成30年度植物防疫情報第8号（平成31年1月24日発表）参照。



図1 春先の全身感染株



図2 二次感染株（初期病徴）

表1 タマネギべと病の主な防除薬剤

平成31年3月現在

薬剤名	希釈倍数	使用基準		成分名 ^{注2)}		殺菌剤コード ^{注1)}	
		時期	回数	成分1	成分2	成分1	成分2
リドミルゴールドMZ	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシルM	マンゼブ	4	M3
フォリオゴールド	800~1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシルM	TPN		M5
ベジセイバー	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	ベンチオピラド	TPN	7	M5
アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫前日まで	4回以内	アゾキシストロビン	-		-
アミスターオブティフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	アゾキシストロビン	TPN	11	M5
シグナムWDG	1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	ピラクロストロビン	ボスカリド		7
メジャーフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	ピコキシストロビン	-		-
ランマンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド	-	21	-
ドーシャスフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド	TPN		M5
ホライズンドライフロアブル	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	ファモキサドン		11
ダイナモ顆粒水和剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	アミスブルム		21
ベトファイター顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル	ベンチアバリカル イソプロピル	27	40
ブリザード水和剤	1,200倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル	TPN		M5
カーゼートPZ水和剤	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	マンゼブ		M3
フロンサイド水和剤	1,000~2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	フルアジナム	-	29	-
フロンサイドSC		収穫3日前まで					
フェスティバルM水和剤	750~1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ	マンゼブ		M3
フェスティバルC水和剤	600~800倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ	銅		M1
ザンプロDMフロアブル	1,500~2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ	アメトクトラジン		45
プロボーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブ イソプロピル	TPN	40	M5
カンパネラ水和剤	750~1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブ イソプロピル	マンゼブ		M3
ベネセット水和剤							
ジャストフィットフロアブル	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブ イソプロピル	フルオピコリド		43
レーバスフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	マンジプロバミド	-		-
ビシロックフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	ピカルブトラゾクス	-	U17	-
ヨネボン水和剤	500倍	収穫7日前まで	5回以内	ノニルフェノールス ルホン酸銅	-		
Zボルドー	500倍	- ^{注3)}	-	塩基性硫酸銅	-	M1	-
クブシールド	1,000~2,000倍	-	-	塩基性硫酸銅	-		
ジマンダイセン水和剤	400~600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ	-	M3	-
ペンコゼブ水和剤	400~600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ	-		
ダコニール1000	1,000倍	収穫7日前まで	6回以内	TPN	-	M5	-

注1) 殺菌剤コード：FRAC(殺菌剤耐性菌対策委員会 <http://www.jfrac.com/>)による農薬有効成分の作用機構の分類。同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

注2) 混合剤については、各成分の総使用回数に注意して散布する。

注3) 使用基準欄の「-」は、登録制限無しを示す。

薬剤の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。なお、**この時期、早生品種では薬剤の使用時期(収穫前日数)を十分確認する必要がある。そのため、特に早生品種との混植園での薬剤散布には十分注意する。**

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

